

コニカミノルタ株式会社
2022年3月期（2021年度）第3四半期
決算説明会

専務執行役 大幸 利充
2022年 2月1日

■ FY21 3Q実績：売上高、営業利益ともに会社想定をやや超過

- ✓ デジタルワークプレイス：実需回復は継続も物流リードタイム長期化による供給遅延により、受注残が増加。想定に未達
- ✓ プロフェッショナルプリント：辰野工場事故影響によるトナー不足の中、ハード販売が健闘、想定を超過
- ✓ インダストリー：高い収益水準を維持、想定通りに推移。3Q累計の営業利益は197億円と前年同期比約2倍、営業利益率も大幅向上（+8pt）

■ FY21 業績・配当予想：売上のみ修正し、利益は据え置き。配当も据え置く。

- ✓ ポイント：受注残解消、期末在庫極小化、インダストリー事業の利益最大化



KONICA MINOLTA

FY21 3Q実績



【億円】

	2021年度 累計	2020年度 累計	前期比	為替影響を 除く前期比	2021年度 3Q	2020年度 3Q	前年 同期比	為替影響を 除く前年同期比
売上高	6,615	6,149	+ 8%	+ 3%	2,164	2,302	△ 6%	△ 11%
営業利益	△ 102	△ 246	-	-	△ 86	33	-	-
親会社の所有者に帰属する								
当期利益	△ 132	△ 206	-	-	△ 89	16	-	-
為替レート(円)								
USドル	111.10	106.11	+4.99		113.71	104.51	+9.20	
ユーロ	130.62	122.38	+8.24		130.07	124.54	+5.53	

3Q 売上高

- DW事業の減収を他事業の増収でカバーしきれず、全社では減収。
- DW事業はハードウェアの実需の堅調な回復は持続。一方、供給面では半導体等部材制約や物流リードタイムの長期化によって遅延が生じ減収。受注残の増加分185億円（2Q末 約300億→3Q末 約485億）を考慮した実需ベースでは増収基調が継続。

3Q 営業利益/ 資本効率

- 営業利益：減収に加え、オフィスハードの空輸対応や物流費用高騰などによる売上原価のアップで粗利が減少。全社販管費は四半期1,000億円未満(為替影響除く)継続も減益。事業ポートフォリオ転換に係る費用など一過性費用15億円を計上。
- 資本効率：利益減と在庫増（輸送中在庫の増加）により営業CFは減少。

2021年度 3Q 業績 | 事業セグメント別売上高と営業利益

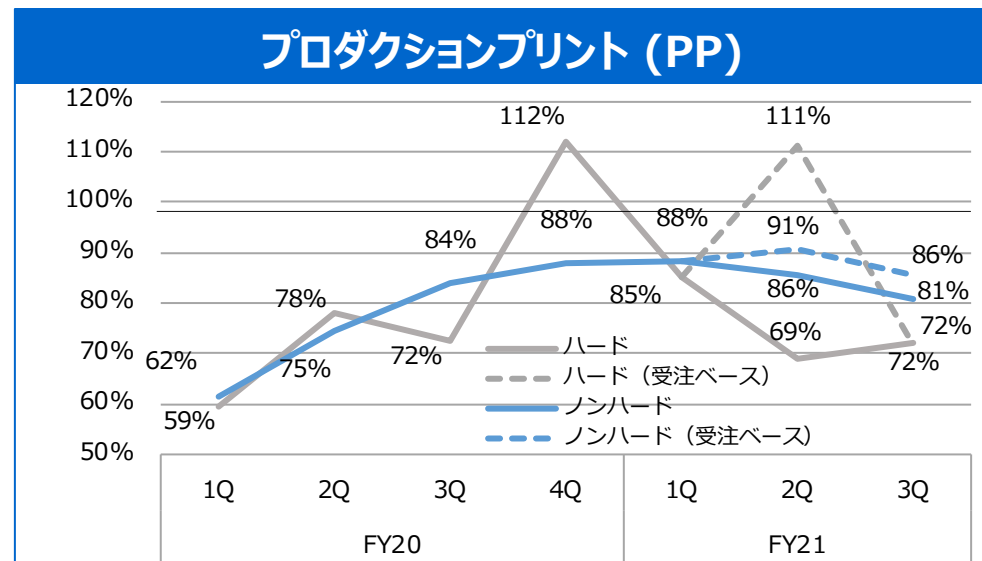
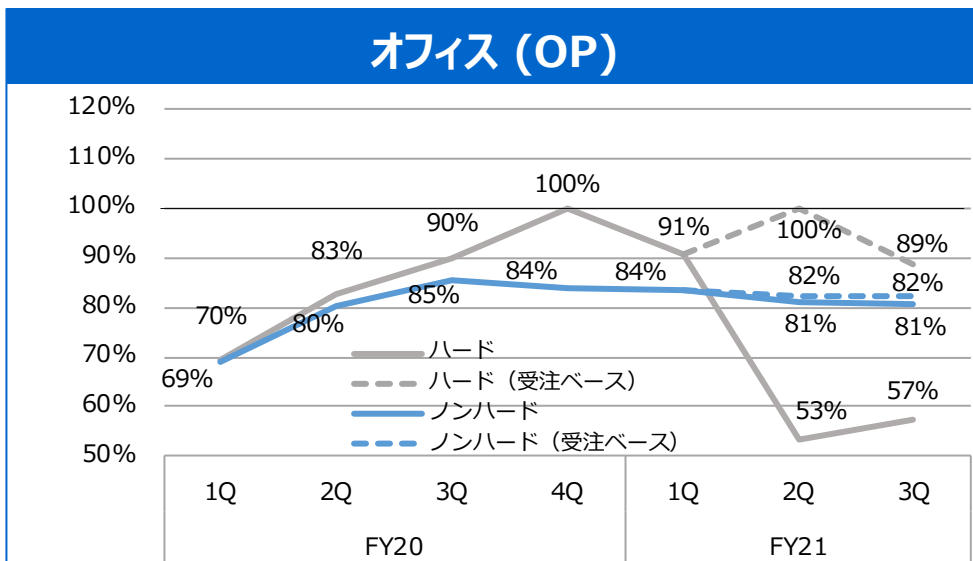
【億円】

売上高	2021年度 累計	2020年度 累計	前年 同期比	為替影響を 除く前期比	2021年度 3Q	2020年 3Q	前年 同期比	為替影響を 除く前年同期比
デジタルワークプレイス事業	3,337	3,363	△ 1%	△6%	1,076	1,250	△ 14%	△19%
プロフェッショナルプリント事業	1,409	1,188	+ 19%	+12%	474	453	+ 5%	△2%
ヘルスケア事業	844	736	+ 15%	+11%	282	282	+ 0%	△5%
インダストリー事業	1,014	855	+ 19%	+15%	328	315	+ 4%	+0%
センシング	312	227	+ 38%	+29%	93	80	+ 17%	+9%
材料・コンポーネント	617	541	+ 14%	+13%	205	205	△ 0%	△2%
画像IoTソリューション	84	87	△ 3%	△8%	29	30	△3%	△6%
コーポレート他	11	8	+ 44%	+57%	5	2	+96%	+96%
全社合計	6,615	6,149	+ 8%	+3%	2,164	2,302	△6%	△11%

営業利益 (右側：営業利益率)	2021年度 累計	2020年度 累計	前年 同期比	為替影響を 除く前期比	2021年度 3Q	2020年 3Q	前年 同期比	為替影響を 除く前年同期比
デジタルワークプレイス事業	△ 90	△ 62	-	-	△ 46	31	-	-
プロフェッショナルプリント事業	5	△ 88	-	-	△ 10	△ 0	-	-
ヘルスケア事業	△ 98	△ 71	-	-	△ 45	△ 5	-	-
インダストリー事業	197	98	+101%	+95%	52	48	+10%	+3%
19.5%					16.0%			
コーポレート他	△ 116	△ 123	-	-	△ 37	△ 40	-	-
全社合計	△ 102	△ 246	-	-	△ 86	33	-	-

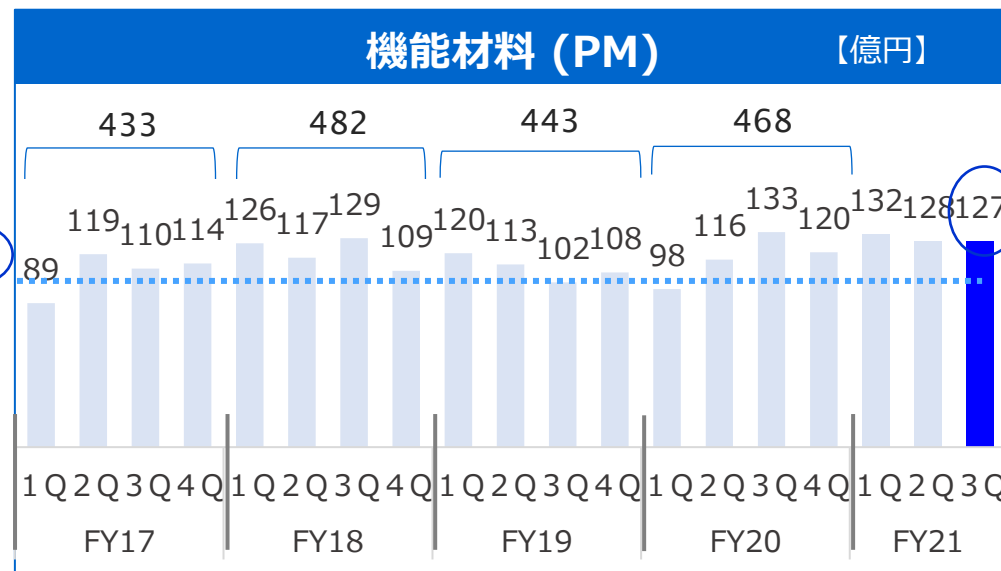
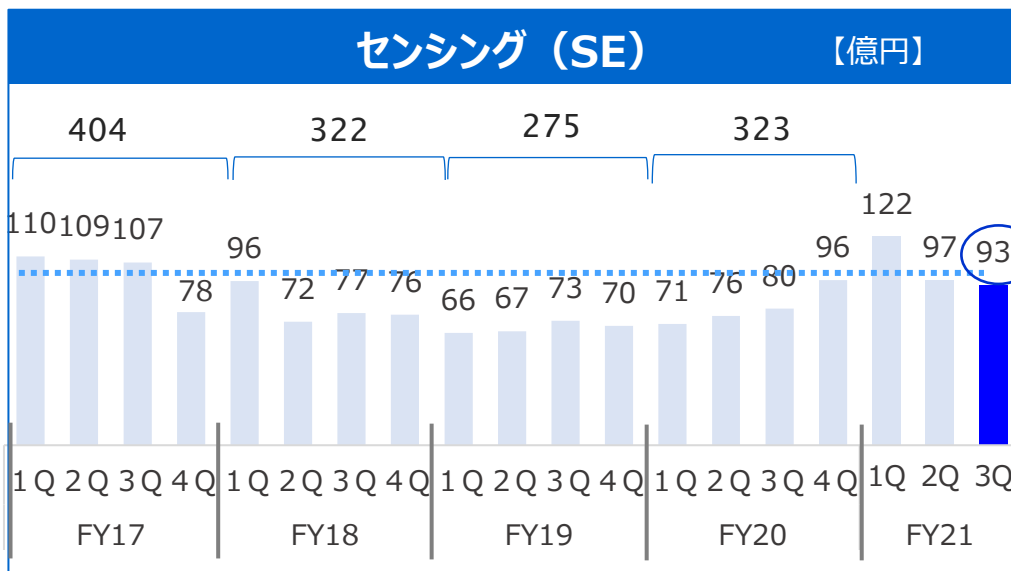
セグメント		見通しに対する進捗
全社		<ul style="list-style-type: none"> 社内想定に対して3Q営業利益はやや上振れ。販促抑制も需要堅調により受注残が想定より拡大。 事業ポートフォリオ転換は新たな開示情報は無し。
デジタル ワークプレイス (想定未達)	OP	HW：半導体等部材制約、物流LT長期化で期末受注残高約440億円（ 想定比約75億増 ）。NH：欧米でのオミクロン株拡大により実需は想定以下（△2pt）。期末受注残高約45億円。
	DW-DX	サービスMRRは+15%と想定以上も、OP関連ソリューション、IT HW販売が半導体影響を受け未達。
プロフェッショナル プリント (想定過達)	PP	HW：既存顧客機置き換えが想定より進捗。期末受注残高約47.5億円。NH：トナー生産優先アロケーションなどにより想定を超過。期末受注残高約35億円。
	IP	HW：各機種 商談クローズ早期化により想定を超過 。IJ機KM-1はUSで四半期過去最高の受注。NH：日用品・アパレルといった 最終需要の回復により、想定を超過 。

ハード・ノンハードFY19比売上増減率（為替影響除く）



* MRR : Monthly Recurring Revenue

セグメント		見通しに対する進捗
ヘルスケア (想定やや未達)	HC	日本市場が牽引しDR / 超音波診断装置 / HC-ITは堅調、パルスオキシメーター販売増で想定通り。
	APM	遺伝子検査：QoQで増加継続（前年比+25%）も想定を若干下振れ。 創薬支援：COVID-19再拡大で治験は減少傾向も想定通り。バックログが増加。
インダストリー (想定やや過達)	SE	光源色向けはアジアでのディスプレイ需要獲得、物体色向けは欧州・中国を中心に伸長し、想定通り。 自動車外観検査とHSI（ハイパースペクトルイメージング）も想定通り、前年度から伸長。
	MCH	機能材料：旺盛なTV市況は落ち着くが、想定通り大型サイズ・IT用は高水準維持。（前年比+1%） IJコンポ：堅調に回復していた欧州、インド市場が減速したが、 成長領域の工業用途インクジェットヘッドが拡大し想定をやや上振れ。
	IIS	FORXAIパートナー数が想定以上の約90社となり、共創開始（NEC、丸紅、など）。 売上は大型案件受注遅れなどにより想定に届かず。





KONICA MINOLTA

FY21 業績見通し

デジタルワークプレイス / プロフェッショナルプリント

前回想定からの改善

前回想定からの悪化

環境変化		事業業績への影響	
		オフィス (OP)	プロダクションプリント (PP)
外部要因	COVID-19影響 (主に需要面)	<ul style="list-style-type: none"> HW : 需要は想定通りの回復継続 NH : オミクロン株拡大で需要回復やや遅延 	<ul style="list-style-type: none"> HW : 需要は想定通りの回復継続 NH : 需要は想定から変化なし
	半導体等部材調達	<ul style="list-style-type: none"> HW : 実需に対し、75%の生産 (3Q 70%、4Q 85%) (上期末の想定は70% (3Q 55%、4Q 85%)) 	
内部要因	トナー工場事故影響	<ul style="list-style-type: none"> トナー : 実需に対し、下期約75%の生産 (3Q 55%、4Q 95%) (全社では上期末の想定と同じだが、PPへの配分を増加) 	
			<ul style="list-style-type: none"> 既存顧客優先トナー供給、HW置換え推進

※HW=ハードウェア、NH=ノンハード

全社

		前提となる環境認識
外部要因	中国電力問題	<ul style="list-style-type: none"> 各種対策で影響軽微
	サプライチェーン	<ul style="list-style-type: none"> 経済活動活発化に伴うコンテナ不足、港湾混雑、物流人財不足、フレイト高騰、出荷-着荷リードタイム長期化が継続

【億円】

	2021年度 業績見通し (今回)	2021年度 業績見通し (前回)	2020年度 実績	前期比
売上高	9,000	8,900	8,634	+ 4%
営業利益	120	120	△ 163	-
親会社の所有者に帰属する 当期利益	15	15	△ 152	-
為替レート [円]				
USD	105.0	105.0	106.1	△ 1.1
EUR	125.0	125.0	123.7	+1.3

通期業績 予想の 考え方

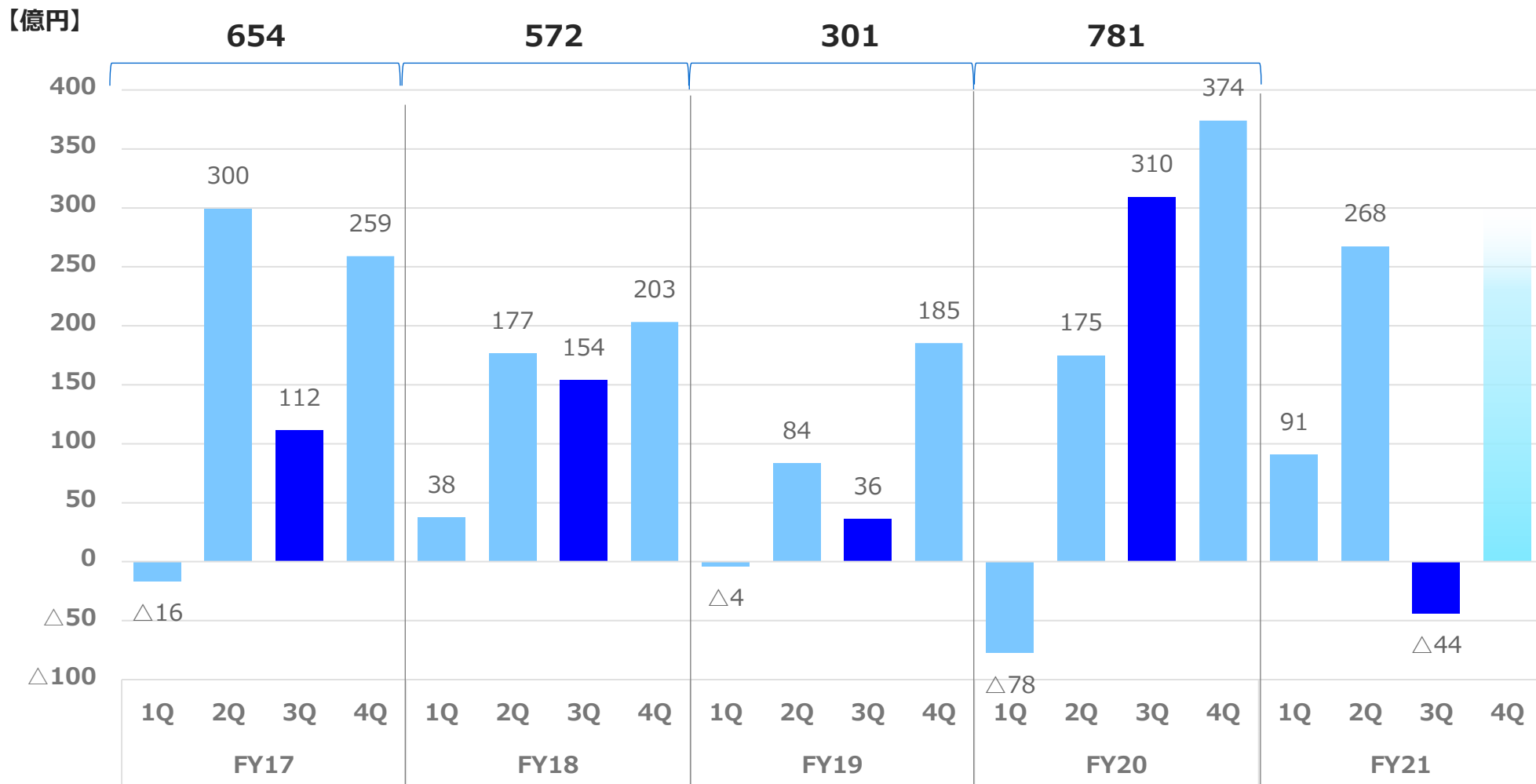
- 為替レート：ユーロ 125円、USDドル 105円的前提を据え置く。
- 売上・利益：3Qの進捗を考慮し、売上のみ100億円上方修正する。
- 配当：据え置き（年間30円/1株、期末15円/1株）とする。

【億円】

売上高	2021年度 業績見通し (今回)	2021年度 業績見通し(前回)	2020年度 実績
デジタルワークプレイス事業	4,700	4,700	4,652
プロフェッショナルプリント事業	1,920	1,800	1,696
ヘルスケア事業	1,200	1,220	1,091
インダストリー事業	1,475	1,475	1,182
センシング	410	410	323
材料・コンポーネント	895	895	737
画像 IoTソリューション	170	170	122
コーポレート他・連調	△ 295	△ 295	13
全社合計	9,000	8,900	8,634

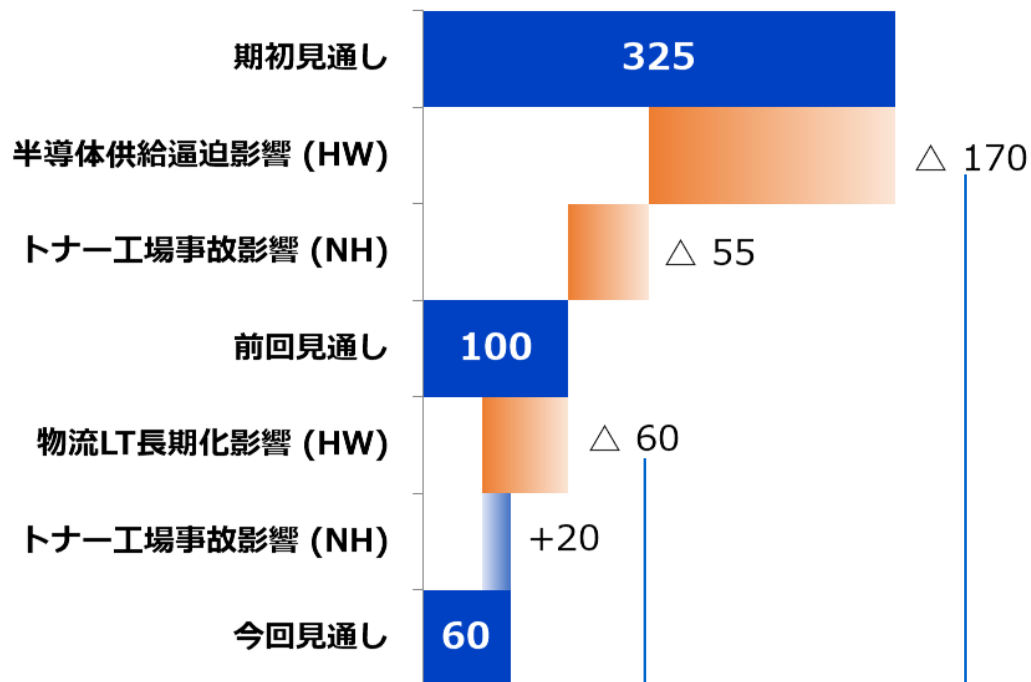
営業利益 (右側：営業利益率)	2021年度 業績見通し (今回)		2021年度 業績見通し(前回)		2020年度 実績	
デジタルワークプレイス事業	60	1.3%	100	2.1%	△ 27	-
プロフェッショナルプリント事業	30	1.6%	△ 20	-	△ 79	-
ヘルスケア事業	△ 90	-	△ 70	-	△ 64	-
インダストリー事業	280	18.9%	280	19.0%	156	13.2%
コーポレート他・連調	△ 160	-	△ 170	-	△ 149	-
全社合計	120	1.3%	120	1.3%	△ 163	-

3Qは物流リードタイム長期化による販売・利益減と輸送中在庫の増加が影響しマイナスも、4Qは受注残解消最大化による販売・利益増と在庫極小化によりプラスに転換見込み。



デジタルワークプレイス

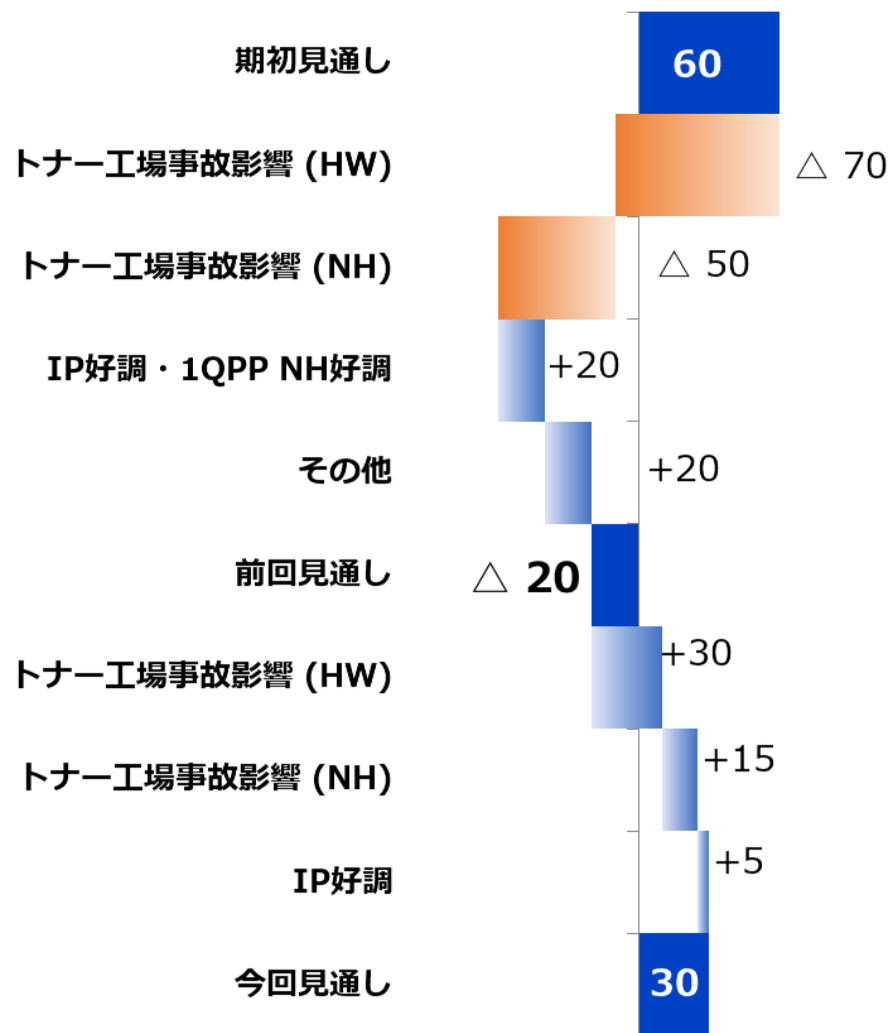
【億円】



年度末想定HW受注残
 前回見通し時点 約300億円
 今回見通し 約390億円

プロフェッショナルプリント

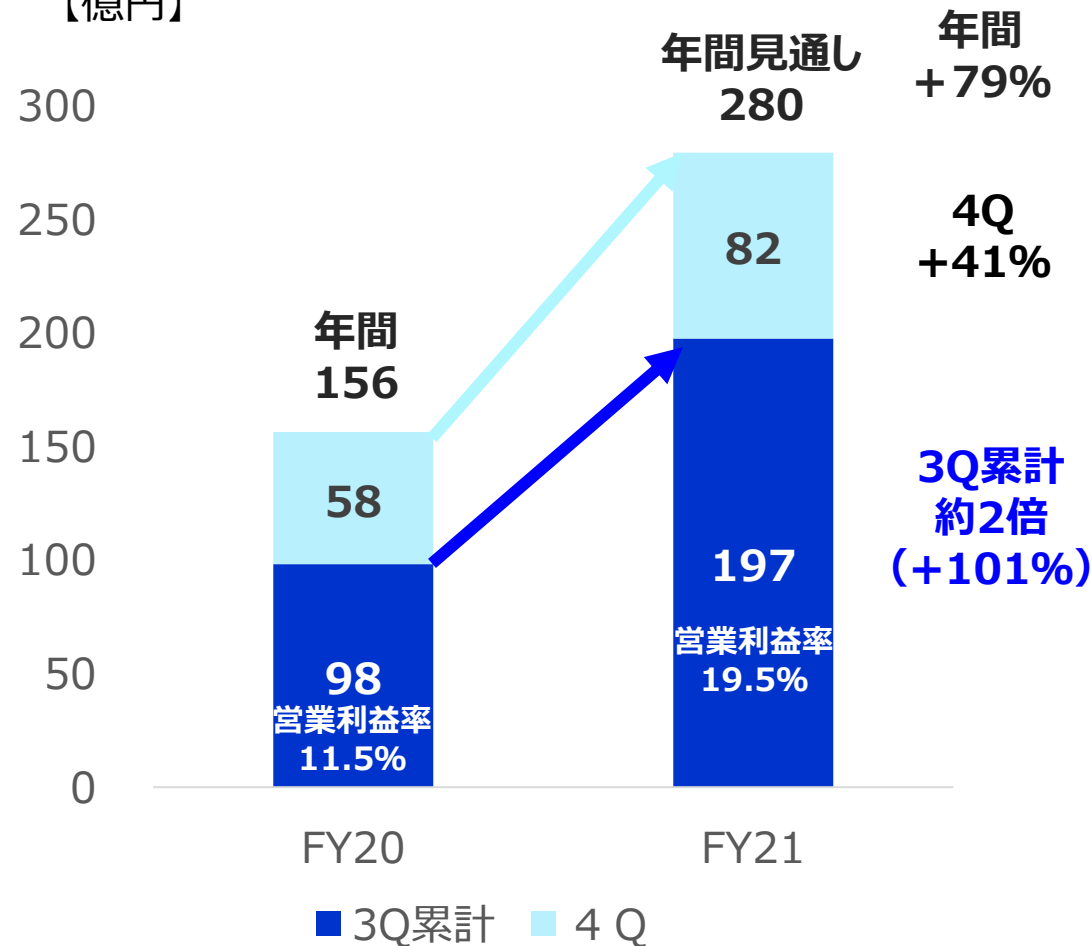
【億円】



- DW事業を中心とした3Q末受注残解消の最大化、期末在庫極小化
- 工場出荷の早期化、顧客までの輸送ルートの複線化
- PPトナー生産量増により、HWの既存顧客機置き換え販売促進とNH供給拡大
- HC事業はDR/パルスオキシ、医療IT、RNA検査/CAREの増加モメンタム維持、創薬支援バックログの売上への転換
- インダストリー事業の成長持続
 - センシング：ディスプレイ向け大口案件、及び新規受注増加の自動車外観・HSI案件のクローズ加速によるQoQ売上増
 - 機能材料：大画面TV向け販売増、新樹脂フィルム及び長尺幅広フィルムの顧客展開加速
 - IJコンポ：工業用途IJヘッド（ディスプレイ製造用途など）販売の拡大
 - 画像IoT：拡大している大型案件パイプラインの確実なクロージング
- 販管費1,000億円未満（為替影響除く）の維持・抑制とともに、経費の配分をヘルスケアやインダストリーといった成長領域にシフト

インダストリー営業利益 (FY20 vs FY21)

【億円】



年間見通し：

- センシングが高水準維持しながら材料コンポーネントの売上が伸長し、4Qで41%の増益見通し。
- 堅調に利益を拡大し、**通期で約80%の増益見込み。**

3Q累計：

- センシング(+38%)、機能材料(+11%)、IJコンポ(+26%)の増収がけん引し、前年の**営業利益を約2倍に拡大。**
- 営業利益率は大幅改善 (+8pt)



KONICA MINOLTA

Appendix



【億円】

売上高・営業利益

FY19		1Q	2Q	3Q	4Q	3Q累計
売上高	OP	1,164	1,209	1,196	1,166	3,570
	DW-DX	185	182	199	188	567
	合計	1,350	1,391	1,395	1,354	4,136
営業利益		55	78	43	1	176
(率)		4.0%	5.6%	3.1%	0.1%	4.2%

FY20		1Q	2Q	3Q	4Q	3Q累計
売上高	OP	783	982	1,042	1,079	2,807
	DW-DX	163	185	208	211	556
	合計	946	1,167	1,250	1,289	3,363
営業利益		△ 96	3	31	35	△ 62
(率)		-	0.3%	2.5%	2.7%	-

FY21		1Q	2Q	3Q	3Q累計
売上高	OP	1,029	855	877	2,761
	DW-DX	182	194	199	576
	合計	1,212	1,049	1,076	3,337
営業利益		11	△ 54	△ 46	△ 90
(率)		0.9%	-	-	-

✓ オフィスのハードで売上回復に遅れ

3Qの概況

オフィス (OP)

- HWは、半導体等の部材不足と物流リードタイム長期化が影響し、需要回復に対し供給不足となり販売台数減 (△41%/FY19比△44%)。そのため受注残が増加 (2Q末 270億→3Q末 440億)。
- NHは、顧客企業での従業員の出社再開延期によりPV回復に遅れ (為替除き△6%/FY19比△19%)
- 地域別の売上は、米国△36%、欧州△30%、中国△47% 日本△7%。

DW-DX (DW-DX)

- MRRは高成長を継続 (+15%)。
- マネージドITサービスは、サービス売上は好調も、半導体不足によるPC/サーバーの供給不足で伸長が鈍化。
- デジタルワークフローソリューションは、プロフェッショナルサービスのデリバリー遅延が発生し、伸長が鈍化。



【億円】

売上高・営業利益

FY19		1Q	2Q	3Q	4Q	3Q累計
売上高	PP	342	354	375	335	1,072
	IP	38	58	51	60	147
	MS	126	115	128	119	369
	合計	506	527	554	514	1,587
営業利益		11	10	29	△ 7	50
(率)		2.1%	2.0%	5.3%	-	3.2%

FY20		1Q	2Q	3Q	4Q	3Q累計
売上高	PP	204	271	295	327	771
	IP	29	43	48	63	120
	MS	84	102	110	117	297
	合計	318	417	453	508	1,188
営業利益		△ 71	△ 17	△ 0	9	△ 88
(率)		-	-	-	1.8%	-

FY21		1Q	2Q	3Q	3Q累計
売上高	PP	303	292	306	901
	IP	59	62	61	182
	MS	117	102	108	326
	合計	479	456	474	1,409
営業利益		10	5	△ 10	5
(率)		2.0%	1.1%	-	0.4%

✓ PPはトナー工場事故の影響。IPは伸長継続。

3Qの概況

プロダクションプリント (PP)

- HWは、トナー工場停機の影響で、既存顧客にトナー出荷を優先するため新規顧客への販売活動を抑制する中でも、MPPが伸長。(△4%/FY19比△36%)。
- NHは、トナー供給不足が生じたが、顧客への影響を最大限抑制。(為替除き△4%/ FY19比△19%)。

産業印刷 (IP)

- HWは、KM-1、ラベル、加飾が前年比で増加。
- NHは、KM-1、ラベル、加飾、テキスタイルの全てにおいて前年比で伸長。

マーケティングサービス (MS)

- 欧州では、景気回復と主要顧客の販売促進活動再開により売上拡大。
- オンデマンドプリントは、日本は法人の販促需要の回復遅れるも、韓国での売上好調。



【億円】

売上高・営業利益

FY19		1Q	2Q	3Q	4Q	3Q累計
売上高	HC	186	264	181	247	632
	APM	72	74	77	83	224
	合計	259	338	259	330	856
営業利益		△ 21	△ 12	△ 4	△ 6	△ 38
(率)		-	-	-	-	-
FY20		1Q	2Q	3Q	4Q	3Q累計
売上高	HC	164	191	200	279	555
	APM	41	59	82	76	181
	合計	205	249	282	355	736
営業利益		△ 47	△ 18	△ 5	7	△ 71
(率)		-	-	-	1.9%	-
FY21		1Q	2Q	3Q		3Q累計
売上高	HC	172	226	203		601
	APM	80	84	79		243
	合計	252	310	282		844
営業利益		△ 32	△ 21	△ 45		△ 98
(率)		-	-	-		-

✓ HCは日本を中心に好調、APMは検査数伸長。

3Qの概況

ヘルスケア (HC)

- DRは、日本は病院市場が堅調、アジア、インドではCOVID-19による需要増も捉え、数量増加。
- 超音波診断装置は、日本は整形などで成長継続、米州、中国で数量増。
- 日本の自治体向けパルスオキシメーターの販売が増加。看護支援システム (VS1) を酸素ステーションに導入。
- 医療ITは、国内はinfomity、PACSとも伸長、米国では、PACSがCOVID-19以前の水準に回復。

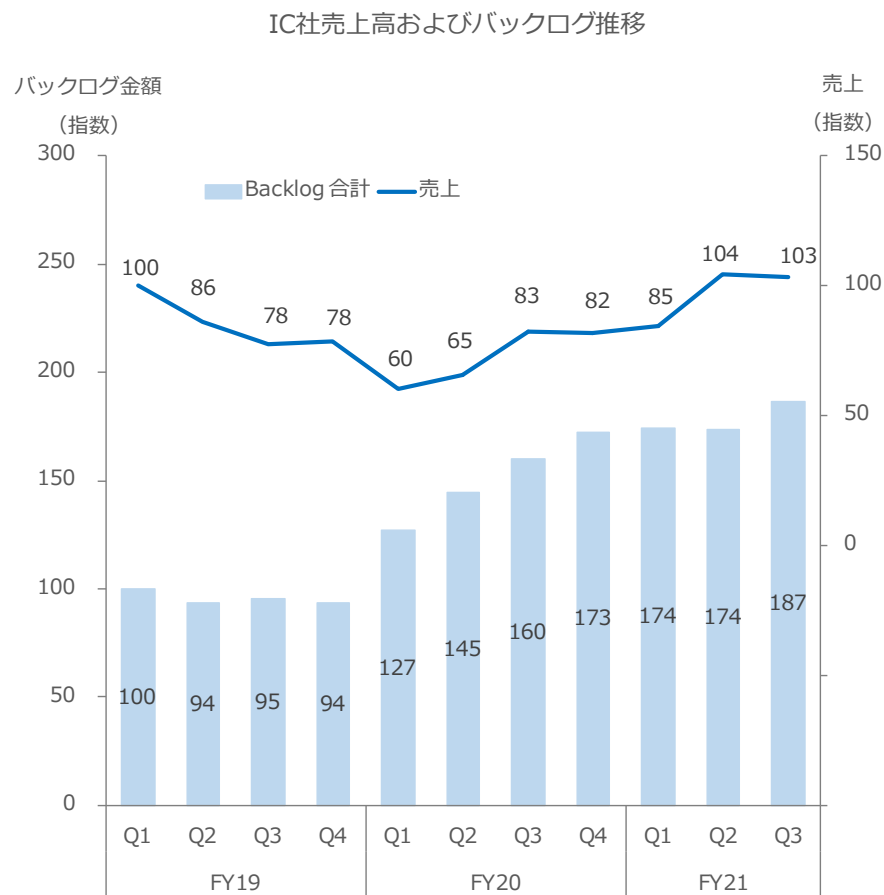
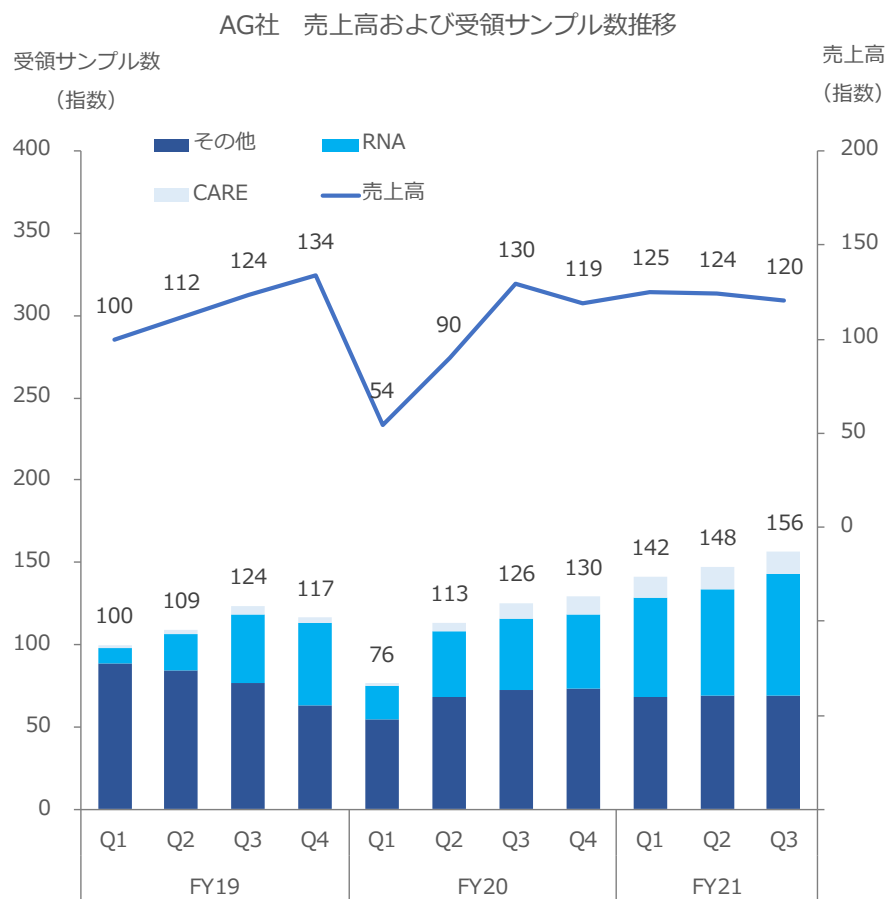
プレジジョンメディシン (APM)

- 遺伝子検査は、RNA検査の増加により、総サンプル数増加が継続。CARE Programは導入施設数拡大。
- 創薬支援サービスは、COVID-19再拡大により治験参加者は減少傾向だが、受注残高は高水準で推移。

- 遺伝子検査：検査数は増加継続したが、米国でのCOVID-19再拡大の影響を受け計画未達。
- 創薬支援：治験減少も、バックログ増加。

Ambry (AG)

Invicro (IC)



FY19 1Qを100とした時の指数



【億円】

売上高・営業利益

FY19		1Q	2Q	3Q	4Q	3Q累計
売上高	SE	66	67	73	70	205
	M&C	210	205	189	185	604
	IIS	25	27	23	34	74
	合計	300	298	285	289	883
営業利益		32	37	42	32	112
(率)		10.7%	12.5%	14.9%	11.2%	12.7%

FY20		1Q	2Q	3Q	4Q	3Q累計
売上高	SE	71	76	80	96	227
	M&C	161	176	205	196	541
	IIS	29	28	30	35	87
	合計	261	279	315	328	855
営業利益		28	22	48	58	98
(率)		10.9%	7.9%	15.1%	17.7%	11.5%

FY21		1Q	2Q	3Q	3Q累計
売上高	SE	122	97	93	312
	M&C	205	208	205	617
	IIS	26	29	29	84
	合計	352	333	328	1,014
営業利益		80	65	52	197
(率)		22.6%	19.5%	16.0%	19.5%

- ✓ SE, PMが牽引し、売上高は着実に増加。営業利益は3Q累計でFY19, FY20年間計を上回る

3Qの概況

センシング(SE) : 計測機器 (MI)

- 光源色向けは上期と比べ大手顧客需要が落ち着いたが、アジアでの着実なディスプレイ需要を獲得。物体色向けは欧州と中国を中心に各地需要が伸長。自動車向け外観計測、HSIとも着実に新規受注を獲得。買収したSpecim社連結効果を除いても、3Qおよび累計ともに前年比で増収。

材料・コンポーネント (M&C) : 機能材料(PM)、光学コンポーネント(OC)、IJコンポーネント(IJ)

- PMは旺盛なテレビ市況は落ち着いてきたが、大型テレビやIT領域の好調な需要を確実に捉え、高付加価値な位相差フィルムや薄膜フィルムが堅調に推移し、前年と同水準。
- IJはサイングラフィックス向けや成長領域の工業用途向けが堅調に推移し3Qおよび累計ともに前年比で増収。
- OCはプロジェクタ用レンズの需要が回復し、3Qおよび累計ともに前年比で増収。

画像IoTソリューション (IIS) : 画像IoTソリューション(IIS)、映像ソリューション(VS)

- IISは昨年好調のサーマルカメラソリューション需要が落ち着いたが、欧州向け監視カメラソリューションの販売が回復し前年と同水準。「FORXAI」パートナー約90社に拡大。

2021年度 3Q 事業セグメント | インダストリー事業 (BU別詳細)



KONICA MINOLTA

【億円】

FY19		1Q	2Q	3Q	4Q	3Q累計
売上高	SE	66	67	73	70	205
	M&C	210	205	189	185	604
	PM	120	113	102	108	335
	OC	48	53	52	44	153
	IJ	42	39	35	32	116
	IIS	25	27	23	34	74
	IIS	19	20	16	22	54
	VS	6	8	7	12	20
合計		300	298	285	289	883
営業利益		32	37	42	32	112
(率)		10.7%	12.5%	14.9%	11.2%	12.7%

FY21		1Q	2Q	3Q	3Q累計
売上高	SE	122	97	93	312
	M&C	205	208	205	617
	PM	132	128	127	386
	OC	38	44	42	124
	IJ	35	36	36	107
	IIS	26	29	29	84
	IIS	23	24	21	67
	VS	3	5	8	17
合計		352	333	328	1,014
営業利益		80	65	52	197
(率)		22.6%	19.5%	16.0%	19.5%

FY20		1Q	2Q	3Q	4Q	3Q累計
売上高	SE	71	76	80	96	227
	M&C	161	176	205	196	541
	PM	98	116	133	120	347
	OC	38	32	40	36	109
	IJ	25	28	32	40	85
	IIS	29	28	30	35	87
	IIS	27	23	20	20	71
	VS	2	4	10	16	17
合計		261	279	315	328	855
営業利益		28	22	48	58	98
(率)		10.9%	7.9%	15.1%	17.7%	11.5%

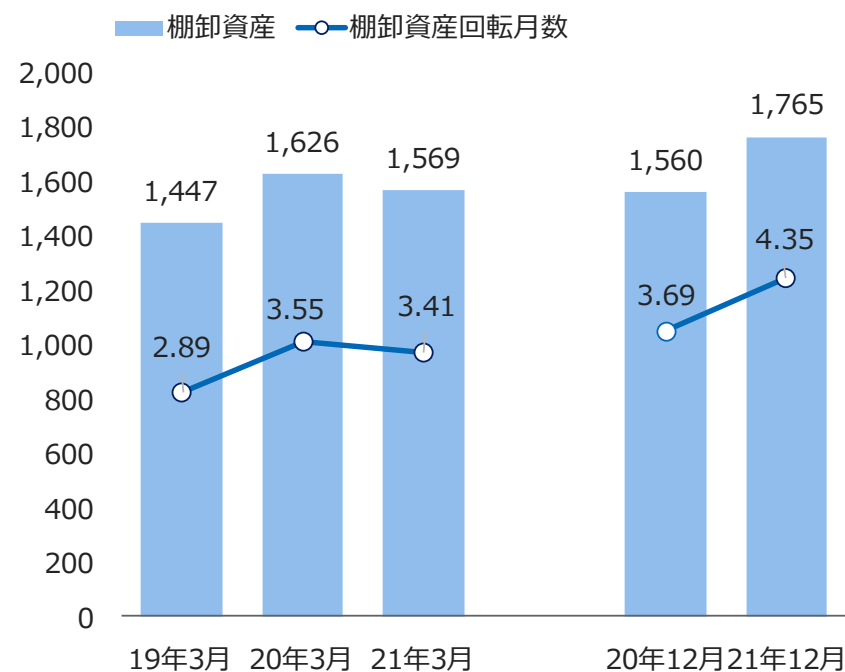
略称

- SE センシング分野
- M&C 材料・コンポーネント分野
- PM 機能材料
- OC 光学コンポーネント
- IJ IJコンポーネント
- IIS 画像IoTソリューション分野
- IIS 画像IoTソリューション
- VS 映像ソリューション

物流リードタイム長期化によりオンボード在庫を中心に棚卸資産が増加。
年度末に向けて販売の最大化により棚卸資産の縮小に努める。

【億円】

	FY19 3Q累計	FY20 3Q累計	FY21 3Q累計
税引前四半期利益 (△は損失)	56	△ 285	△ 121
減価償却費及び償却費	574	583	566
営業債権及びその他の債権の増減 (△は増加)	14	181	265
棚卸資産の増減 (△は増加)	△ 311	90	△ 159
営業債務及びその他の債務の増減 (△は減少)	△ 1	△ 79	△ 110
その他	△ 216	△ 83	△ 127
営業活動によるキャッシュ・フロー	116	407	315
有形固定資産の取得による支出	△ 260	△ 203	△ 314
無形資産の取得による支出	△ 84	△ 98	△ 136
子会社株式の取得による支出	△ 42	△ 46	-
その他	4	18	40
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 382	△ 329	△ 411
フリーキャッシュフロー	△ 266	78	△ 96



棚卸資産回転月数 = (棚卸資産残高) / (直近3カ月の平均売上原価)

【億円】

	2021年度 累計	2020年度 累計	前期比	2021年度 3Q	2020年度 3Q	前年 同期比
売上高	6,615	6,149	+8%	2,164	2,302	△ 6%
売上総利益	2,902	2,642	+10%	947	1,032	△ 8%
(売上総利益率)	43.9%	43.0%	+0.9pt	43.8%	44.8%	△ 1.1pt
販売管理費	3,007	2,894	+4%	1,023	985	
その他収益・費用	4	6		△ 10	△ 15	
営業利益	△ 102	△ 246	-	△ 86	33	-
(営業利益率)	-	-	-	-	1.4%	-
金融収支	△ 19	△ 39		△ 7	△ 8	
税引前利益	△ 121	△ 285	-	△ 93	24	-
(税引前利益率)	-	-	-	-	1.1%	-
親会社の所有者に帰属する当期利益	△ 132	△ 206	-	△ 89	16	-
(親会社の所有者に帰属する当期利益率)	-	-	-	-	0.7%	-
EPS (円)	△ 26.84	△ 41.69		△ 18.09	3.24	
設備投資額	276	300		94	87	
減価償却費及び償却費 *	418	427		138	142	
研究開発費	472	485		158	159	
FCF	△ 96	78		△ 215	149	
投融資	0	87		0	50	
為替レート [円] USD	111.10	106.11	+4.99	113.71	104.51	+9.20
EUR	130.62	122.38	+8.24	130.07	124.54	+5.53

* 減価償却費及び償却費：IFRS16による使用権資産償却費は含まない



【億円】

	2021年度 累計	2020年度 累計	前期比	2021年度 3Q	2020年度 3Q	前年 同期比
販売管理費						
販売変動費	257	246	+10	85	85	△0
研究開発費	472	485	△13	158	159	△1
人件費	1,449	1,380	+69	492	469	+23
その他	829	782	+47	288	271	+16
販売管理費 計	3,007	2,894	+113	1,023	985	+39
	*為替影響額：		+113億円（除く為替 + 0億円）	+44億円（除く為替 △ 6億円）		
その他の収益						
その他の収益 計	62	90	△28	14	15	△0
その他の費用						
固定資産除売却損	15	8	+6	8	4	+4
事業構造改善費用	10	37	△27	3	9	△6
その他費用	33	38	△5	14	17	△3
その他の費用 計	58	84	△26	24	30	△5
金融収支						
受取利息・受取配当金-支払利息	△ 23	△ 27	+4	△ 7	△ 8	+0
為替差損益	△ 0	△ 4	+4	1	2	△1
その他	4	△ 7	+12	△ 1	△ 3	+2
金融収支 計	△ 19	△ 39	+20	△ 7	△ 8	+1

【億円】

前年同期比較 (FY21累計 vs. FY20累計)	デジタル ワークプレイス	プロフェッショナル プリント	ヘルスケア	インダストリー	コーポレート他	合計
【要因】						
為替影響	+29	+22	△0	+6	△2	+55
数量増減他	△116	+56	+41	+112	+4	+96
価格変動	+5	△3	△1	△3	-	△2
コストダウン	△1	△1	-	-	-	△3
経費増減	+45	+28	△70	△13	+10	△0
その他収益費用	+10	△8	+4	△2	△6	△2
【営業利益】						
増減額（前年同期比）	△28	+93	△27	+99	+7	+144

前年同期比較 (FY21/3Q vs. FY20/3Q)	デジタル ワークプレイス	プロフェッショナル プリント	ヘルスケア	インダストリー	コーポレート他	合計
【要因】						
為替影響	+6	+6	△3	+3	△0	13
数量増減他	△126	△24	△9	+11	+3	△145
価格変動	+12	△1	△3	△2	-	+6
コストダウン	△3	△1	-	-	-	△4
経費増減	+25	+12	△27	△8	+3	+6
その他収益費用	+8	△2	+1	+0	△3	+5
【営業利益】						
増減額（前年同期比）	△77	△9	△40	+5	+3	△119



【億円】

	20年3月	21年3月	21年12月
現金及び現金同等物	899	1,238	1,105
営業債権及びその他の債権	2,609	2,628	2,422
棚卸資産	1,626	1,569	1,765
その他の流動資産	378	384	351
流動資産合計	5,512	5,820	5,644
有形固定資産	3,095	2,925	2,791
のれんおよび無形固定資産	3,378	3,475	3,539
その他の非流動資産	784	777	726
非流動資産合計	7,256	7,177	7,056
資産合計	12,768	12,998	12,699

	20年3月	21年3月	21年12月
営業債務及びその他の債務	1,629	1,858	1,617
社債及び借入金	2,893	3,153	3,384
リース負債	1,142	954	935
その他の負債	1,766	1,526	1,579
負債合計	7,430	7,490	7,514
親会社の所有者に帰属する 持分合計	5,237	5,399	5,070
非支配持分	100	108	115
資本合計	5,338	5,507	5,186
負債及び資本合計	12,768	12,998	12,699

	20年3月	21年3月	21年12月
自己資本比率(%)	41.0	41.5	39.9
格付け評価用 自己資本比率(%)	44.9	45.3	43.8
D/Eレシオ	0.77	0.76	0.85

自己資本比率=親会社の所有者に帰属する持分/総資産



【為替レート：円】
【影響額、感応度：億円】

	FY20	FY21	対前年影響額		為替感応度*2	
	累計	累計	売上高	営業利益	売上高	営業利益
米ドル	106.11	111.10	+96	△7	+28	△2
ユーロ	122.38	130.62	+90	+39	+15	+4
ポンド	136.24	152.76	+25	△1	+2	+0
欧州通貨*1	—	—	+131	+37	+20	+6
人民元	15.44	17.25	+46	+19	+34	+13
その他	—	—	+37	+9	—	—
予約影響額	—	—	△1	△4	—	—
合計	—	—	+309	+55	—	—

*1欧州通貨：ユーロ/ポンド以外の欧州通貨も含む

*2為替感応度：1円変動時の影響額（年間）

【億円】

	2021年度	2021年度	2020年度	前期比
	業績見通し(今回)	業績見通し(前回)	実績	
売上高	9,000	8,900	8,634	4%
営業利益	120	120	△ 163	-
(営業利益率)	1.3%	1.3%	-	
親会社の所有者に帰属する当期利益	15	15	△ 152	-
(親会社の所有者に帰属する当期利益率)	0.2%	0.2%	-	
ROE (%)	0.3%	0.3%	-	
設備投資額	470	480	577	
減価償却費及び償却費	545	510	572	
研究開発費	615	640	650	
FCF	70	175	437	
投融資	0	155	93	
為替レート [円] USD	105.00	105.00	106.06	
EUR	125.00	125.00	123.70	



■ 地域別売上高構成比（円貨ベース）

	FY19				FY20				FY21		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
日本	12%	13%	13%	14%	15%	14%	14%	14%	12%	13%	14%
北米	34%	33%	33%	33%	33%	32%	31%	31%	32%	31%	31%
欧州	36%	34%	37%	37%	35%	36%	36%	37%	37%	35%	35%
中国	6%	6%	5%	4%	8%	8%	8%	7%	7%	9%	7%
その他	12%	13%	12%	12%	10%	11%	11%	11%	12%	13%	13%

■ 地域別売上高増減（為替除く）

	FY19				FY20				FY21		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
日本	△8%	+4%	+1%	△3%	△19%	△18%	△14%	△11%	+12%	△9%	△7%
北米	△2%	△2%	△3%	△12%	△34%	△27%	△24%	△20%	+27%	△12%	△14%
欧州	△2%	△1%	+6%	△7%	△31%	△23%	△19%	△17%	+28%	△13%	△18%
中国	△4%	△1%	△8%	△40%	△4%	+1%	+7%	+16%	+15%	△1%	△21%
その他	△7%	+2%	+5%	△6%	△35%	△32%	△25%	△20%	+37%	+4%	△8%

■ ハード売上に占めるカラー比率

	FY19				FY20				FY21		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
オフィス	72%	73%	72%	75%	69%	76%	75%	74%	74%	72%	73%
PP	78%	82%	76%	80%	75%	80%	80%	81%	79%	82%	80%

■ オフィスMFP 販売台数推移 Y o Y

【億円】

	FY19				FY20				FY21		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
A3カラーMFP	93%	99%	102%	93%	72%	84%	92%	92%	132%	62%	55%
A3モノクロMFP	95%	95%	94%	60%	76%	89%	98%	140%	117%	83%	65%
A3MFP合計	94%	97%	99%	79%	74%	86%	94%	107%	126%	71%	59%

■ オフィスMFP ノンハード売上高推移 Y o Y

	FY19				FY20				FY21		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
ノンハード売上高	624	605	623	601	421	489	531	511	535	513	528
ノンハード比率	53%	50%	52%	51%	53%	50%	51%	47%	52%	60%	60%

■ オフィスMFP ノンハード地域別売上高推移（現地通貨ベース） Y o Y

	FY19				FY20				FY21		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
日本	97%	100%	99%	98%	85%	90%	94%	92%	108%	98%	97%
米国	99%	99%	98%	95%	62%	73%	78%	81%	124%	103%	94%
欧州	96%	100%	102%	97%	66%	82%	83%	78%	126%	101%	93%
中国	105%	114%	96%	72%	107%	105%	115%	140%	102%	105%	65%
インド	115%	117%	101%	102%	52%	68%	98%	113%	141%	151%	130%
合計	98%	98%	99%	97%	69%	80%	85%	84%	120%	101%	94%

■ プロダクションプリント 販売台数推移 Y o Y

【億円】

	FY19				FY20				FY21		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
カラー機	100%	97%	102%	72%	51%	73%	65%	100%	138%	83%	99%
モノクロ機	107%	87%	89%	76%	59%	68%	71%	95%	122%	83%	90%
合計	102%	93%	97%	73%	54%	71%	67%	99%	132%	83%	96%

■ プロダクションプリント ノンハード売上高推移 Y o Y

	FY19				FY20				FY21		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
ノンハード売上高	203	199	215	198	122	148	179	175	183	179	183
ノンハード比率	59%	56%	57%	59%	60%	55%	60%	53%	60%	61%	60%

■ プロダクションプリント ノンハード地域別売上高推移（現地通貨ベース） Y o Y

	FY19				FY20				FY21		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
日本	97%	98%	94%	93%	76%	82%	88%	87%	107%	93%	75%
米国	96%	101%	96%	94%	52%	67%	77%	82%	146%	111%	100%
欧州	97%	97%	100%	100%	64%	77%	79%	78%	138%	121%	98%
中国	112%	121%	116%	92%	113%	117%	140%	138%	156%	118%	70%
インド	117%	121%	116%	105%	34%	71%	105%	113%	245%	151%	116%
合計	102%	99%	101%	99%	62%	75%	84%	88%	141%	115%	96%



【億円】

【売上高】	FY19				FY20				FY21		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
デジタルワークプレイス事業	1,350	1,391	1,395	1,354	946	1,167	1,250	1,289	1,212	1,049	1,076
プロフェッショナルプリント事業	506	527	554	514	318	417	453	508	479	456	474
ヘルスケア事業	259	338	259	330	205	249	282	355	252	310	282
インダストリー事業	300	298	285	289	261	279	315	328	352	333	328
センシング	66	67	73	70	71	76	80	96	122	97	93
材料・コンポーネント	210	205	189	185	161	176	205	196	205	208	205
画像IoTソリューション	25	27	23	34	29	28	30	35	26	29	29
コーポレート他	3	3	3	5	2	3	2	5	3	4	5
全社合計	2,417	2,557	2,495	2,491	1,732	2,115	2,302	2,485	2,299	2,152	2,164
【営業利益】	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
デジタルワークプレイス事業	55	78	43	1	△ 96	3	31	35	11	△ 54	△ 46
プロフェッショナルプリント事業	11	10	29	△ 7	△ 71	△ 17	△ 0	9	10	5	△ 10
ヘルスケア事業	△ 21	△ 12	△ 4	△ 6	△ 47	△ 18	△ 5	7	△ 32	△ 21	△ 45
インダストリー事業	32	37	42	32	28	22	48	58	80	65	52
コーポレート他	△ 70	△ 65	△ 59	△ 45	△ 41	△ 42	△ 40	△ 26	△ 37	△ 42	△ 37
全社合計	6	49	51	△ 24	△ 226	△ 52	33	83	31	△ 47	△ 86

・複合機（MFP: Multi Functional Peripheral）スピードセグメント：デジタルワークプレイス事業

Seg.1 ～20枚機、Seg.2 21-30枚機、Seg.3 31-40枚機、Seg.4 41-69枚機、Seg.5 70～枚機（A4縦、分速）

・Workplace Hub（WPH/ワークプレイスハブ）：デジタルワークプレイス事業

当社が提供するエッジIoTプラットフォーム。複合機にサーバーを搭載して、現場（エッジ）でリアルタイムでデータを分析、パターン可視化し、ITインフラ管理コストの削減、ビジネスプロセス効率化に役立つソリューションを提供。人とデータを結び付け、オフィスでの意思決定や問題解決の支援をよりスマートに実現する。

・カラープロダクションプリント機セグメント：プロフェッショナルプリント事業

ELPP（Entry Light Production Print）月間印刷量10-30万枚、主に大企業の集中印刷室向け低価格帯商品

LPP（Light Production Print）月間印刷量10-30万枚、商業印刷向け商品

MPP（Mid Production Print）月間印刷量30-100万枚、商業印刷向け商品

HPP（Heavy Production Print）月間印刷量100万枚以上、商業印刷向け商品

・RNA（リボ核酸）検査：ヘルスケア事業

DNA（デオキシリボ核酸）の一次転写物であるメッセンジャーRNA（mRNA）構造の変化を捉える検査。従来のDNAでの検査では臨床的な“意義不明”となっていたDNA変異に対して、転写産物のmRNAを解析することでより精度の高い検査結果を提供することができる。

・CARE Program（Comprehensive Assessment, Risk & Education）：ヘルスケア事業

遺伝性乳がんハイリスク群の効果的な拾い上げと遺伝子診断に関わるトータルサポートを行うプログラム。

・SANUQI：インダストリー事業

ディスプレイ用の電子デバイスの構成部材として使用される、新樹脂の商標。本樹脂を用いたフィルムを「SANUQI」フィルムとする。



KONICA MINOLTA

- **本資料の記載情報**
本資料におきましては、四捨五入による億円単位で表示しております。
- **将来見通しに係わる記述についての注意事項**
本資料で記載されている業績予想及び将来予想は、現時点における事業環境に基づき当社が判断した予想であり、今後の事業環境により実際の業績が異なる場合があることをご承知おき下さい。